

プロジェクト概要	幅広い年齢層が安心安全に利用できるユニバーサルデザインのマイクロモビリティシェアサービスを構築し、他言語対応も含めて誰もが快適にまちを周遊できる体験を提供することで、地域経済の活性化や持続可能なまちづくりに貢献する		
課題	宇都宮市の観光エリアにおいて、公共交通（バス・タクシー）の運行本数や乗り継ぎの不便さが回遊のハードルになっており、駅から目的地までのラストワンマイルの移動手段が限られ、誰もが快適に移動できる移動手段が不足。	事業エリア	宇都宮中央地域（宇都宮市）
取組内容	【交通サービスの高度化（マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供）】 - 幅広い年齢層が利用でき運動能力や言語能力に依存せず、高い走行安定性を持つユニバーサルデザインのマイクロモビリティをシェアサービスとして導入する。 - シェアサービスの拡充および観光型MaaS連携を狙うため、モビリティを停車するポートの配備や、LRT（宇都宮ライトレール）での車内広告の掲載や共同での施策を検討し、一次交通と二次交通の連携を図る。 【モビリティ・データの取得と活用】 - モビリティから取得できるデータ（移動回数・移動軌跡等）や実際の回遊データから 既存の交通モードのみでは顕在化していなかった利用者動向を可視化し、観光利用、日常利用を含め、公共交通の利用促進策を地域協働で展開していく。 【エンドコンテンツとの連携】 - 物理的に交通結節点にモビリティを設置することで、一次交通との連携を推進。 - 一次交通と二次交通の連携だけではなく、地域の観光情報サイト等と連携し、本サービス利用と連動したクーポン等も提供することで、地域経済の活性化に貢献。	交通事業者	軌道：宇都宮ライトレール株式会社 シェアモビリティ：株式会社Luup
		MaaSアプリ等	■ アプリ・システム：Luupアプリ（既存アプリに機能追加） ■ 既存で事業展開するモバイルアプリのアセットを利用することで、特定小型原動機付自転車の乗車に必要な16歳以上の年齢確認や交通ルールテストをスムーズかつ省リソースで実装。
		データの活用等	■ データの取得方法：Luupアプリから得られる利用データを活用。 ■ データの活用方法：利用属性・利用動向・利用傾向等から利用需要を分析し 交通政策や観光施策に活用する。
効果	安定性が高く多言語対応のモビリティシェアサービスを導入し、誰もが快適に宇都宮を周遊できる環境を整える。滞在時間や消費額の増加を通じて地域経済の活性化を図るとともに、サービスの稼働率、利用者層の変化、Unimo利用者アンケート、Unimoの評価向上、エンドコンテンツ利用率等の指標により効果を定量的に検証する。	座組	
		スケジュール	・4月～11月 車両開発・製造 システム開発、実証準備 ・12月～1月 実証運行 ・2月 効果測定
事業の新規性	■ 幅広い年齢層が安心安全に利用できるユニバーサルなマイクロモビリティのシェアサービスは存在しない。（電動アシスト自転車やキックボードが主流） ■ 現状のシニアカー等は購入価格が約40万円と高額になり、納車までもある程度の時間が必要になり、シニアカーのシェアサービスは存在せず、本事業は利用料が安価で即時利用が可能のため、初めての利用者でもコストを最小限に抑えることが可能。さらに、専用アプリにより利用から決済まで一気通貫したサービスの提供が可能。		

